



廃棄野菜の現状と未来, 私たちの取り組み

筑波大学 環境活動サークル Revelop

活動の概要、動機

活動内容： 規格外野菜の活用促進活動



- 学園祭における規格外野菜利用商品の出品
- 地元飲食店とJAの連携支援、規格外野菜使用の促進活動

活動の原点(問題意識)

- 規格外として廃棄される野菜の存在→有効活用できないか
- 大学周辺地域の飲食店とのつながりを生かしたい
- フードロス問題や野菜の流通、廃棄問題についてもっと深く知りたい

Revelopとは:

筑波大学公認の環境活動サークル

**環境問題について考え、取り組み、自然に触れる
ための幅広い活動を行っている**

規格外野菜の活用に関する取り組みもその一つ

規格外野菜活用促進活動の内容

JAつくば谷田部様→規格外品を含む野菜をTrigger様に出荷

Trigger様→JAつくば谷田部様から野菜を毎週仕入れ、利用

**Revelop→双方の仲介、JAつくば谷田部様より規格外品や
農業の現状などを勉強**



活動の背景となる問題

○農作物の圃場廃棄、流通経路における廃棄

- ・傷、虫食い、奇形、サイズ違いなどで規格外
- ・豊作により、販売による採算が合わない
- ・急な天候不順により、適切な時期に収穫不能

等の判断により、圃場や物流倉庫等で廃棄されてしまう農作物

「日本の食品ロスの612 万ton には、産地において収穫したが出荷できずに廃棄したものなどは含まれていません。」(折笠,2021)
とあるように、日本で積極的に問題提起されている「食品ロス」には含まれていない領域での、農作物廃棄の問題

2017年度	収穫量(ton)	出荷量(ton)	ロス率(%)	ロス量(ton)
根菜類	4,947,000	4,121,000	16.7	826,000
葉茎菜類	5,363,000	4,707,000	12.2	656,000
果菜類	2,336,000	1,977,000	15.4	359,000
香辛野菜	48,300	38,100	21.1	10,200
果実的野菜	649,800	575,300	11.5	74,500
野菜合計	13,344,000	11,419,000	14.4	1,925,000

表1 農水省作況状況から野菜の食品ロスを試算した結果

折笠,2021

つくば市の圃場における実態調査

○JAつくば谷田部 組合員様の圃場を現地調査、インタビュー

- ・圃場で概ね10%程度の作物が廃棄に→折笠,2021のデータとほぼ一致
- ・虫食い、擦り傷、打ち身が圃場廃棄の主な原因(ナスの場合)
- ・突発的な圃場廃棄の原因として
 - ・台風による実のダメージや株が倒れる
 - ・大雨による畑の浸水

などが挙げられる。

他の作物に関しても、作物特有の事情で圃場廃棄が発生している



図1 ナス株下の圃場廃棄作物

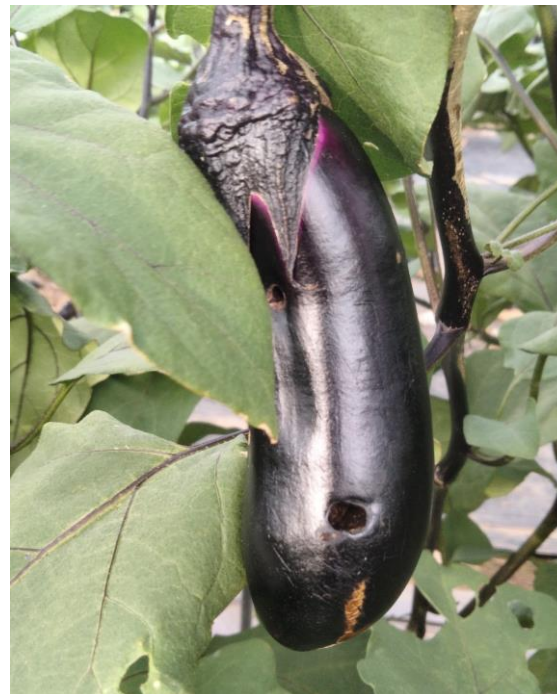


図2 ナスの虫食い

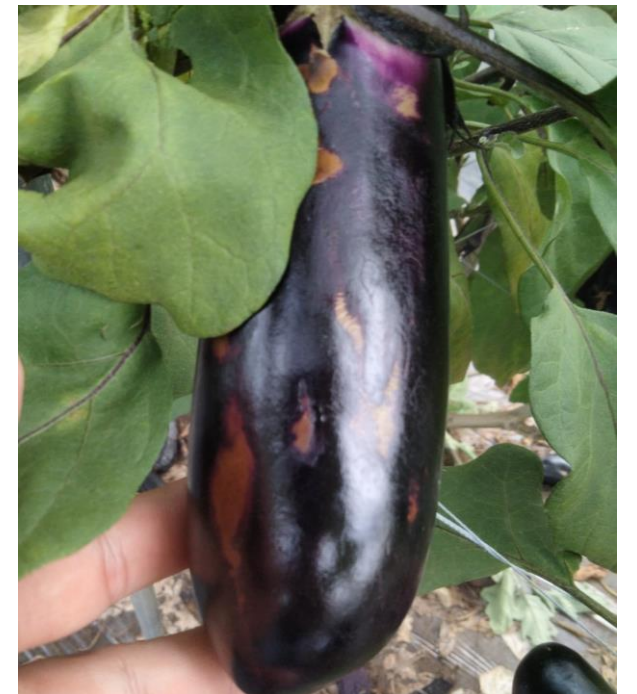


図3 ナスの擦り傷、打ち身

つくば市の圃場における実態調査2

生産者さんの声：

- ・生産した農作物が全て利益を出して売られること（市場に流通すること）が1番望ましい。
- ・規格外野菜を一定の種類と量を定期的にそろえることは難しい
- ・傷や虫食いが少ないものは加工品に回したり、少量の規格外野菜はJAの直売所へ。消費できるものは全体のごく一部
- Revelopの力を生かしたい！
- ・地元飲食店とのつながり→Triggerさんは筑波大OBの経営するお店
- ・筑波大生への情報発信力→若い世代に問題を周知
- ・非営利活動だからこそ、自由で幅広い活動（一部、課題もあり）

活動の成果-Revelop自身の手応え-

○活動自体の効果＋活動していくうえでの学びが多い

- ・圃場廃棄が「フードロス」の定義に含まれていないことなど

→JA職員の方々や農家の方々と会議を重ねること、圃場の見学に行くことで知ることができる実情があった

○学生団体の活動の限界を実感

- ・まだ小規模な取り組みである

・非営利だからこそできる取り組みであるが、問題自体の改善には、営利セクターの大規模な関与が必要

→総じて、活動を継続しつつ得た学びを生かしている

活動の成果-参加アクターのお声-

○Trigger様

メリット:

- ・規格外品を含めた仕入れにより仕入れ原価が抑えられており、コスト面での利益が大きい

- ・規格外品であっても、卸売りルートを省いた直売形式のため新鮮さが魅力的で、商品の味に活かされている

デメリット:

- ・傷、虫食い、打ち身等様々な規格外の要因があるので、調理時における食材の品質確認には少し神経を使う

→総じて、デメリットを大幅に上回るメリットがあって良い(Trigger店長)という評価を頂いている

活動の成果-参加アクターのお声2-

○JAつくば谷田部様、組合員様

- ・農産物のロスについて、若い世代が考えていることがうれしい
- ・幅広い層に問題が啓発されていることが重要

→農家さんの意見、考えをミーティングを通して聴取したことが生きている

→啓発、普及の意義だけでなく、問題自体に効果感のある取り組みに改善していくことが、今後の課題と考えられる

○参考文献等

折笠, 俊輔. (2021). 出荷されず、畑で捨てられている農産物がある: 圃場廃棄という食品ロス.
循環とくらし, 10, 58-61. 廃棄物資源循環学会.

図1-3はすべてRevelopメンバー撮影、圃場所有者許諾済み